



令和3年4月1日
園長 石川 典子

令和3年度 港区立にじのはし幼稚園経営計画 —気付き、考え、行動する子 みんな笑顔の幼稚園—

1 教育理念（生きる力の基礎を育む幼稚園）

公立幼稚園の使命

- 幼児期にふさわしい生活を通した質の高い教育を実践する幼稚園
- 地域・保護者ととともに子供を育てる幼稚園
- 教職員が専門性を高め合い協同（働）する幼稚園

幼稚園は学校教育の始まりです。幼児期の学びは、幼児を取り巻く「人・物・こと」のすべての環境と関わり、直接体験である遊びや生活の中で展開される自発的な活動を通して行われます。一人ひとりの幼児がもつ、生まれながらにして自然に成長していく力と周囲の環境に能動的に働き掛けようとする力を支え、安定した情緒の下で自己を十分に発揮すること、幼児期にふさわしい生活が展開されることを基本に、心身の調和のとれた発達の基礎を培います。

幼稚園教育要領・学習指導要領では、幼児期から高等学校卒業までの学校教育全体において育成すべき資質・能力の3つの柱が示されています。幼稚園では、それぞれの資質・能力を個別に育てるのではなく、遊びや生活を通して一体的に育てていきます。また、地域の公立幼稚園として、子供たちが暮らす地域の環境や人との関わりを深め、家庭と協力して教育を進めてまいります。

幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることで見られるようになる具体的な姿としての「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を小学校教員と共有し、子供たちの「育ちと学び」をつなげていきます。港区立幼稚園の教職員として、常に学び、互いに専門性を高め合い、小学校以降の教育との連携、地域の幼児教育をリードしていきます。

幼児教育において育みたい資質・能力（生きる力の基礎を育む）

豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする
「知識及び技能の基礎」

気付いたことやできるようになったことなどを使い、考えたり、工夫したり、表現したりする
「思考力、判断力、表現力等の基礎」

遊びを通して一体的に育む

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする
「学びに向かう力、人間性等」

2 にじのはし幼稚園の教育目標（令和3年度の重点）

しなやかでたくましい子 人も自分も大切にする子 自分で考え行動する子

教育目標は、にじのはし幼稚園に通う子供たちを、3年間でどのような子供に育てていこうとするのかを目標として示したものです。これら3つの目標に向かい、幼児の遊びや生活を通じて一体的に育てていきます。

今年度は「自分で考え行動する子」を重点とし、気付き、よく考え、自分で決めて行動する幼児を育てる教育を進めてまいります。

園内研究、お台場アカデミーでは研究のテーマとし、小学校以降の教育とのつながりを見通した「自立心」「思考力の芽生え」を育ててまいります。

3 幼稚園経営の方針

- ・全ての子供たちを、教職員全員で育てていきます。
- ・幼児、保護者、地域との信頼関係を基盤に幼児の学びを支えます。
- ・幼児の姿を温かな目で見取り、教員同士のカンファレンスを通してより確かな幼児理解につなげ、発達に必要な環境を整えます。
- ・幼児の育ちゆく方向を意識し、その時期にふさわしい経験が積み重ねられるようにします。小・中学校、保育園との交流・連携を進め、地域の公立幼稚園として幼児教育と小学校教育の円滑な接続を進めます。

<気付き、考え、行動する子供・保護者・教職員像>

気付き、考え、行動する子供

- ① 自分のことは自分でする子ども
- ② 食べ物の好き嫌いなく、早寝・早起き・朝ごはん・朝ウンチ、自分の健康に関心をもつ子ども
- ③ 全身を使って遊び、安全に対する構えのある子ども
- ④ 好奇心・探究心をもち、何事にも積極的に関わり考える子ども
- ⑤ 話す・聞く楽しさ、伝え合う喜びを味わえる子ども
- ⑥ 絵本や物語を楽しみ、豊かなイメージをもつ子ども
- ⑦ 自分の力で行動し、やり遂げる充実感を味わえる子ども
- ⑧ 人とかかわる楽しさを味わい、相手の思いに気付ける子ども
- ⑨ よいことや悪いことに気付き、考えて行動する子ども

気付き、考え、行動する保護者

- ① 子供の思いや成長に気付き、子育てに喜びを感じる保護者
- ② 子どものやる気を見守り、支える保護者
- ③ 学級の子どもたちの成長をともに喜び合える保護者
- ④ 幼稚園の教育活動に積極的に関わり地域とつながる保護者

気づき、考え、行動する教職員

- ① 心身共に健康で、明るく笑顔で、さわやかな教職員
- ② 相手の状況、思いに気づき、考え、行動できる教職員
- ③ 社会人として、教育公務員として責任感、情熱、使命感をもつ教職員
- ④ 幼稚園全体の子供たちを、教職員全員で育てる意識をもち、協働する教職員
- ⑤ 自ら資質を高め、研究と修養に励み努め、改善・工夫をする教職員
- ⑥ 子ども、保護者に真摯に向き合い信頼される、専門性をもつ教職員
- ⑦ 地域と幼稚園を愛し、保護者や地域と連携・協働する教職員

4 経営の重点

中期的目標（2年間を目途に取り組む目標）

- (1) 幼稚園教育要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿『自立心』『思考力の芽生え』」を念頭に、幼児が育っていく方向を意識し、一人ひとりの遊びと生活の充実を保障し、教育目標の達成をめざした教育活動を推進する。
- (2) 教職員一人ひとりが、教育目標や経営方針を自分の課題として捉え、組織の中での役割を意識し、相互に協力、学び、成長し合い、総合力を発揮し、園全体の幼児を育てる教職員集団を形成する。
- (3) お台場アカデミー学校運営協議会を推進し、お台場学園港陽小学校・港陽中学校、地域、保育園との密接な連携を図り、地域との関わりの中で育つ教育環境を構築し、地域とともにある幼稚園を推進する。
- (4) 保育園との交流・連携を進め、同じ地域に暮らす幼児同士の関わりを深めるとともに、地域の幼児教育の質の向上、小・中学校との交流、連携、接続において、リーダー的役割を果たす。

今年度の主な取組

幼稚園教育要領「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に示されている、10項目の中「自立心」「思考力の芽生え」を視点として幼児の姿を丁寧に捉えます。幼児が繰り返し楽しんだり試したりしながら遊びや生活を進め、幼児が考え、自分の力でやり遂げる達成感や自信につながる環境を工夫し、育みたい資質・能力を総合的に育み、「気づき、考え、行動する子」を育てます。これらは、幼児期にふさわしい生活を送ることや生活に必要な行動を発達に合わせて自分の力ですることと相互に関連をしています。一人ひとりの発達や時期に合わせ、継続的に根気よく、繰り返し、家庭と連携を図りながら取り組んでいきます。

- (1) 健康な生活リズムと習慣、基本的な生活行動が身に付くようにします。

幼児は信頼する大人に支えられながら、生活行動を自分で行うことの必要性や人や物に対する態度を身に付けていきます。また、物事を最後まで行う体験は、自分の力でやろうとする気持ち、諦めずにやり遂げることで達成感につながり、自信をもって行動するようになります。

- ①「手洗い、手指消毒」「早寝、早起き、朝ごはん、朝ウンチ」
 - ・視聴覚教材等を活用した各学年の指導を行い、幼稚園・家庭の実践を通して必要感を感じるようにしながら習慣にしていきます。
- ②「戸外遊び」「元気アップヨガ」「元気アップリトミック」「タグラグビー」
 - ・「戸外遊び」を積極的にし、心と体を十分に働かせ、体を動かす気持ちよさが感じられるようにします。ヨガやリトミック、タグラグビーでは様々な動きを経験し、自分たちの遊びに活かせるようにします。体を十分に動かして遊ぶことは、安全に気を付けて行動することにもつながります。
- ③「挨拶」「姿勢」「相手の顔を見て話す、返事をする」「自分のことは自分でする」
 - ・登降園時に親子でする挨拶、場面や場所に合った挨拶を経験し、モデルとなる大人の姿を見たり、様々な挨拶の仕方を知ったりし、自分から挨拶をする心地よさを味わうようにします。
 - ・「背筋を伸ばす」姿勢を知らせ、食事、挨拶等の機会に実践し、習慣となるようにしていきます。
 - ・顔を見て会話をすること、返事をするのは、話の内容を理解することや相手を大切にすることにつながります。実際の場面の経験を通して理解させ、身に付くようにしていきます。
 - ・「使ったものは自分で片付ける」「自分の荷物は自分で持つ」「相手に嫌な思いをさせてしまったら謝る」等、自分のことは自分でする経験を重ねるようにします。「自分でできた」という自信がもてるように支え、次への意欲につながるようにしていきます。

(2) 身近な環境、人・物・ことに関心や親しみをもち、遊びや生活に取り入れられるようにします。

幼児は地域の環境や人と関わりつながりを通し、地域への愛着をもち社会とのつながりの意識が芽生えていきます。お台場の地域や人を愛し、大切に育む素地が育ちます。

①「てくてくデー」(徒歩遠足)「ぴかぴかデー」(清掃活動)

近隣の公園や海で遊んだり活動をしたりする経験を通して、自分たちが暮らす地域の環境を知り、愛着がもてるようにします。

②「わくわくデー」「未就園児との交流」「保育園との交流」「港陽小学校、港陽中学校との交流」「在宅サービスセンター、児童館の訪問」などを通して、保護者、地域の人と触れ合う体験を重ね、親しみもてるようにします。体験を重ねることで、相手の気持ちを考える、相手に応じた言葉や振る舞いがあることを感じるなどし、考えながら行動する機会としていきます。

(3) 心動く体験を重ね、豊かな学びへとつなげます。

幼児は、教師との信頼関係を基盤に安心して自己を十分に発揮し遊びや生活を通して学びます。主体的に遊び生活をする直接体験の中で、幼児が気づき、考え、行動することは豊かな学びにつながります。

①「砂」「水」「虫」「植物」「栽培物」などの身近な物や事象にじっくり、繰り返し関わられるようにし、物の性質や仕組みを感じ取ったり、気付いたり、予想したり、工夫したりする姿を支えます。

②遊びや生活の中で教師や友達と関わり、相手の気持ちに気付いたり、自分とは違う考えがあることに気付いたりする経験が重ねられるようにします。思い通りにいかない悔しさ、友達と一緒に楽しむ楽しさ、

自分で考えること、考えたことを行動に移すことなど、様々な感情や体験を通し、新たな考えを生み出したり、物事をいろいろな面から考えたりすることにつながっていきます。

(4) 研究の推進し指導力の向上を目指します。

「気づき、考え、行動するにじっ子の育成 『自立心』『思考力の芽生え』を育む」を研究テーマとし、「園内研究」「お台場アカデミー研究」「保幼小連携」を進めます。

- ①園内研究会に大学教授を講師として招聘し、研究保育・協議会を実施する。また、「自立心」「思考力の芽生え」を育む援助についてカンファレンスを行い、実践に生かします。
- ②お台場アカデミー研究授業・協議会を、お台場学園港陽小学校・港陽中学校とともに実施し、教員間の交流、互いの教育についての理解を深めます。
- ③保幼小合同研修会において、研究授業と連絡会を行い、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を共有し、小学校入学への円滑な取り組みについて理解を深めます。

(5) 子供たちの姿や育ちを、保護者・地域と共有します。

幼児の教育は、幼稚園・家庭・地域で連続的に行われています。家庭・地域の皆様に、幼稚園の取組を理解していただき幼児の姿や育ちを共有することは、幼児の望ましい発達の循環につながります。

- ①園便り、学級便りで、幼稚園の方針や学級の運営について分かりやすく伝えます。また、ホームページ、Twitterでは、教育日に発信を行い教育活動の様子を伝えます。Twitterの発信を周知し、家庭・地域からのフォローを増やし、緊急災害時の活用にも備えます。
- ②ホームページ、緊急配信メールを活用し、幼稚園からの情報を迅速に伝えます。
- ③幼稚園公開、行事の参観は、分散した公開や参観などの工夫をし、幼児の姿や育ちの理解につながるようにします。
- ④保護者会、個人面談、登降園時、行事後の保護者アンケートなどの機会を活用し、保護者との連絡を密にし、迅速な対応をしていきます。

(6) 取組について評価を行い、保護者・地域に報告します。

今年度の教育課程の実施状況について評価し、改善を図ります。

- ①幼稚園公開、行事等の実施後に、幼児の取組の様子や成長、保護者の感想などを基に即時に評価を行い、次年度の実施に生かされるようにします。
- ②学期ごとの評価、遠足や交流といった項目ごとの評価を行い、年度末の学校評価につなげます。
- ③今年度の取組について、保護者アンケート、学校運営委員会委員アンケート、教職員アンケートを実施し、自己評価を行います。それらを基に学校運営委員会に評価いただき、今年度の学校評価として次年度の教育課程に生かします。学校評価は、保護者会、ホームページ等で保護者・地域の方々に報告をします。